

# プログラム近況報告

ウガンダ共和国 キルヤンガ地域開発プログラム (UGA-192491)

2013年度 (2012年10月1日～2013年9月30日)

## よりよい学習環境が整ってきています

キルヤンガ地域開発プログラム (以下、ADP) は、活動開始から4年目となり、教育や水・衛生分野での活動を行いました。今年度、教育プロジェクトでは、学校の教育環境改善のため整備された校舎に机などを搬入しました。また、子どもたちが自ら課題を見出し解決に向けて活動する、「子ども保護委員会」の活動が活発に行われています。



学校で学べることに感謝のお祈りをする子どもたち

## チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長をともに喜んでいただけますと幸いです。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。

皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人  
ワールド・ビジョン・ジャパン  
常務理事・事務局長

片山信彦



## ADPマネージャーからのごあいさつ

キルヤンガ地域よりごあいさつ申し上げます。  
皆さまからの継続的なご支援により、教育や水・衛生改善分野で活動を実施することができ、私たちの目標である「2025年までにキルヤンガ地域のすべての人々の生活の質を改善する」ことにまた一歩近づくことができました。  
ここに皆さまのご支援への感謝を含めて、活動の成果をご報告いたします。

リブマ・ムヒンド・バゴンザ  
(キルヤンガ シニア プログラム マネージャー)  
ウガンダのナラウェヨ・キシータ シニア プログラム マネージャーと兼務しています



## 教育プロジェクト

### 貧しい家庭の子どもや家族の経済状況の改善に目を向けました

地域の子もたちが質の高い教育を受け、読み書きや計算ができるようになることを目指し活動を行いました。今年度は18校の小学校教師を対象に教科ごとの研修を行いました。きちんとした研修を実施したことで、いつでも授業が行える教師を適切に配備できるようになり、教師不足が改善されてきました。また教科書や新聞などの教材配布も行い、活動を開始した2010年に比べ12～13歳の子もたちの読み書き能力が大きく向上しています。小学校1～2年生まで修了した人数は、1割近く増加しました。また、学習環境の改善のため、小学校に3つの教室を建設し、3人掛けの机を設置しました。これにより今年度、学校に通う子ども数が大きく増え、子どもたちも授業に集中できるようになり、子どもたちの成績も向上してきています。



新しい校舎が建設され子どもたちに笑顔があふれています



学校での子どもたち。学校に通えることが大きな喜びです



## 水・衛生改善プロジェクト

地域における安全な水の確保、住環境の整備、基本医療の提供を通じ、マラリアなどの病気を減らすことを目指し活動を行いました。

今年度、8カ所の湧水が安全に使えるように整備したほか、浅井戸6カ所と深井戸7カ所の合計21カ所の水源を整備しました。その結果、活動が始まった当時に比べ、約2倍の家庭で安全な水を利用することができるようになりました。また、歩いて30分以内の距離に水源が整備されたことにより、水汲みをする子どもや女性の負担が減ったほか、安全できれいな水が入手できるようになり、汚染した水に起因する下痢などの病気が大幅に減っています。

また、村民保健チームによる手洗いの徹底に関する研修など、日々の衛生への取り組みが強化されています。指導を受けた家庭は当初から2倍に増え、医療センターで予防治療を受けた人も大幅に増えました。水質や衛生状態が改善されたことにより、子どもたちの病気やけがが減っていると同時に、住民の衛生に対する意識も向上してきています。

2人の子どもの母さんであるエヴリンさんは、「私たちは家の近くできれいで安全な水を手に入れることができるようになりました。

歩く距離が短くなり、毎日の水汲みが楽になり、とても嬉しいです」と話してくれました。

水汲みをする子どもたち。地域の人々も工事に参加し、7カ所の深井戸が掘られました



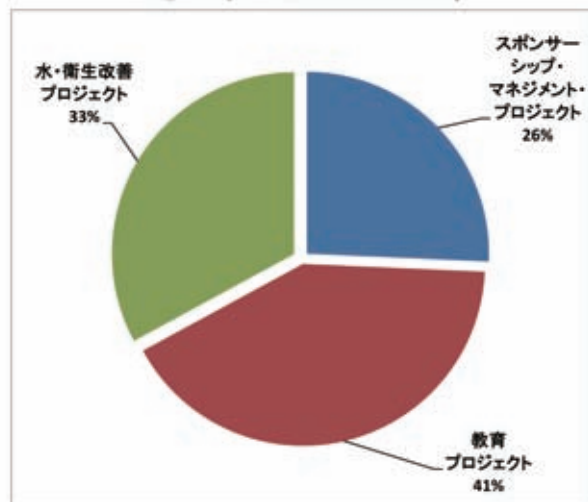
### 会計報告

#### 収支計算書

自 2012年 10月1日 至 2013年 9月30日

	UGA-192491 (単位:円)
<b>プログラム支援額</b>	
チャイルド・スポンサーシップ	45,346,935
当期支援額	45,346,935
前期繰越金	1,145,991
<b>プログラム支援額合計</b>	<b>46,492,926</b>
<b>プログラム支出額</b>	
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	11,669,276
教育プロジェクト	18,808,645
水・衛生改善プロジェクト	14,956,242
<b>プログラム支出額合計</b>	<b>45,434,163</b>
次期繰越額	1,058,763

#### 支援分野別内訳( UGA-192491 )



## スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、

さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動もを行っています。



両親や関係者も傍聴する中、子どもたちが家庭や学校で直面する課題について話し合っている様子



温かいご支援をありがとうございます！

## チャイルド・ストーリー

モニカちゃん(12歳)は、小学校の7年生です。小学校6年生の時、窓もない泥壁の教室で勉強していました。雨の日は教室内に雨水が入り、昼ごはんは抜きで、教材にも不自由していたため、すっかり勉強へのやる気をなくしていました。「学校に行かなければこんな思いはしなくてもすむ」、そう思い、ある朝、起きても学校に行く準備をしませんでした。お母さんは病気がと心配し診療所に連れて行こうとしましたが、「体調が悪いんじゃない、あんなひどい状況の学校に戻りたくない」とモニカちゃんは話しました。お母さんは学校教育の必要性を話し、学校に行かなかった自分ようになってはいけないと言いました。その後、モニカちゃんはお母さんと先生に説得され学校に戻りました。そんなモニカちゃんを応援するため、お母さんは先生に娘の悩みを伝え、モニカちゃんが学校で食べる昼食を用意するようになりました。また、



勉強できて嬉しい!と話すモニカちゃん

ある先生は本や鉛筆など必要な教材を用意するよう努力しました。

キルヤングADPとしては、モニカちゃんの通う学校に3つの教室を建設し、3人掛けの机を支援したほか、保護者や教師からなる学校運営委員会は、経験の浅い教師たちに必要な研修を実施し、教師を適時配置できるようになりました。これらの取り組みにより、モニカちゃんも今では、明るい未来に向けて勉強できるようになり、また地域のより多くの子どもたちが学校に通えるようになっていきました。

「私の夢は看護師さんか学校の先生になることです。両親は、先生や友だちと一緒に私を応援してくれています。私は学校の子ども保護委員会に参加しています。コミュニティの子どもたちがみんな勉強することができるように祈っています。何より、このキルヤングADPに感謝しています」

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX:03-5334-5359

e-mail: [dservice@worldvision.or.jp](mailto:dservice@worldvision.or.jp) ホームページ: [www.worldvision.jp](http://www.worldvision.jp)

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。ホームページにぜひお立ち寄りください。



# プログラム近況報告

World Vision

この子を救う。未来を救う。

ウガンダ共和国 ナラウェヨ・キシータ地域開発プログラム(UGA-181728)

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)

生活改善事業によって生計が向上し、  
人々の生活が変わってきています!

ナラウェヨ・キシータ地域開発プログラム(以下、ADP)では、「生活改善プロジェクト」、「保健・HIV/エイズ対策プロジェクト」、「教育プロジェクト」、「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」の4つのプロジェクトを実施しています。

「生活改善プロジェクト」では、2013年6月、マックラインちゃんの家族に対して、生計向上のため雌ヤギを1頭支援しました。マックラインちゃんと家族

は大切に世話をし、その雌ヤギは双子を2回、あわせて4頭の子ヤギを産みました。マックラインちゃんの家族は、この中から1頭の雌ヤギをほかの支援を待つ子どもの家族に提供する予定です。また将来的にはこれらのヤギを売り、乳牛を購入することも検討しています。これにより、家族が飲む牛乳が確保されるのみならず、販売することで生計向上にもつながります。



産まれたヤギを抱えるマックラインちゃん(左)と弟(右)。家族みんなで大切に育てています

## チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。

2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長をともに喜んでいただければ幸いです。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。

皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



特定非営利活動法人  
ワールド・ビジョン・ジャパン  
常務理事・事務局長

片山信彦

## ADPマネージャーからのごあいさつ

ナラウェヨ・キシータ地域よりごあいさつ申し上げます。地域の子どもたちを続けてご支援くださりありがとうございます。

皆さまからのご支援により、教育や生活向上、また保健・HIV/エイズといった分野で活動を実施することができ、私たちが目標である、「2018年までにナラウェヨ・キシータ地域の人々の生活の質を改善する」ことにまた一歩近づくことができました。

ここに皆さまのご支援への感謝を込めて、活動の成果をご報告いたします。

リブマ・ムヒンド・バゴンザ

(ナラウェヨ・キシータ シニア プログラム マネージャー)  
ウガンダのキルヤンガ シニア プログラム マネージャーと兼務しています



## 生活改善プロジェクト

農家のグループや地域の生産チームと協力し、種の品種改良を行い、各家庭の自給高が向上しました。これにより、生活に十分な食料を収穫でき、余った分を販売し、収入を得られるようになりました。例えば、7人の子どもがいる農家で、子どもの教育費や病院の治療費を支払えるようになりました。また、農家のグループに対して、安価で栄養豊富な飼料を与えるトレーニングを行い、雑種のヤギやイノシシなどの家畜による生計向上にも努めました。これらの活動により、各家庭の継続的な収入向上が期待されています。



収穫した米を喜ぶ子ども



栄養についてのトレーニングに参加するチャイルドの母親

稲の品種改良により、米の生産高が5倍に向上すると期待されています



## 保健・HIV/エイズ対策プロジェクト

地域にある二つの診療所と協力して、予防接種とHIV/エイズの治療など、地域の人々が基本的な医療サービスを受けることができるように努めてきました。この取り組みを通じて、病気の予防やまた医療サービスの受診についての意識が高まりました。また、子どもたちが、自分で考え、意思決定し、それを伝えることができるようになることを目指すライフ・スキル・トレーニングの一環で、学校内でのスポーツイベントなども開催し、子どもたちが話し合ったり、協力して物事を進める力を伸ばす活動を行いました。



チームワークを学び、他人と協力して物事を進める力をつけていきます



予防接種の実施

※ライフ・スキル・トレーニング：子どもたちが、自分で考え、意思決定し、それを伝えることができるようになることを目指す学習。性教育、子どもの人権、女性の人権、意思決定(HIV/エイズの犠牲者にならないよう、男性が決定権を持つ伝統的な社会で、自分の意思を「ノー」と言って伝えることの大切さ等)について学ぶ

地域に暮らすバビガヤさんは、すでに結婚している6人の子どもを含め12人の子どもがいます。3年前、一家は二棟の泥で作られた家に住んでいましたが、雨期の激しい雨によって、すでに傾いていた屋根はとうとう崩れ、家中が水浸しになってしまいました。貧しい家族には、バナナの葉や草を屋根に敷き詰めるので精いっぱいでした。「その当時は寝ることも、子どもたちを学校に行かせることも、十分に食べさせることもできず、本当に苦しかったです。新しい家を建てるのが夢でしたが、自分の力ではどうすることもできず、希望も持てませんでした」

2006年にワールド・ビジョンの活動が始まり、2008年から養豚の事業に参加するようになりました。一家は支援された雌豚を大切に育て、雌豚は子豚を一頭産み、その子豚を売って、風雨をしのぐための25枚の防水シートを買うことができたほか、子どもたちも学校に通えるようになりました。



バビガヤさん一家。支援された豚を家族で大切に育てています

## 会計報告

### 収支計算書

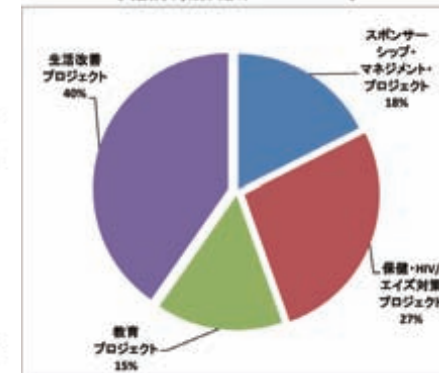
自 2012年10月1日 至 2013年9月30日

	UGA-181728 (単位:円)
プログラム支援額	58,199,741
チャイルド・スポンサーシップ	58,199,741
当期支援額	163,262
前期繰越金	58,363,003
プログラム支援額合計	58,363,003

プログラム支出額	
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	9,587,976
保健・HIV/エイズ対策プロジェクト	14,720,154
教育プロジェクト	8,255,190
生活改善プロジェクト	22,014,958

プログラム支出額合計	54,578,278
次期繰越額	3,784,725

## 支援分野別内訳(UGA-181728)





## 教育プロジェクト

ADP内にある小学校では、教室と教員室、イス付きの机が3台備わった学校を建て、学習環境が改善されました。また教師が授業の準備をする場所もでき、生徒と教師が面談をする機会も増えました。これにより、昨年度500人だった在籍生徒が、今年度は

571人にまで増えました。

また、ADP内の小学校に教科書や新聞などを支援し、多くの生徒たちの読み書きの能力向上に、役立てられています。



小学校に新しく建設された校舎



配布された新聞を使って授業を受ける小学校の生徒たち

## スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、

さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動もを行っています。



子どもの権利について意見を述べ、話し合う、子ども議会の子どもたち



チャイルドと現地のスタッフ。子どもたちや親と信頼関係を築きながら活動を進めています

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX:03-5334-5359

e-mail: [dservice@worldvision.or.jp](mailto:dservice@worldvision.or.jp) ホームページ: [www.worldvision.jp](http://www.worldvision.jp)

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。ホームページにぜひお立ち寄りください。

# プログラム近況報告

World Vision

この子を救う。未来を救う。

ウガンダ共和国 ナンコマ地域開発プログラム(UGA-194195)

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)

## 子どもたちの声が活かされ、 子どもたちの権利が守られる地域へと変化しています

今年度、ナンコマ地域開発プログラム(以下、ADP)では、子どもたちが自分たちの基本的な権利を守るための活動を積極的に推進しました。子どもの権利について学び、自分の意見をまとめ、自信を持って発表する方法についてトレーニングを受けたジョナサン君は、地域のリーダーが課題を話し合う討論会で、地域で子どもたちの権利が侵害されている様々な例をあげ、対策を取って欲しいと訴えました。その結果、臨時会議が開かれ、県政府としても取り組みを行うという決議がなされました。



「ほかの地域の子  
どもたちと同じように勉強し  
て良い成績をとりたいです」  
7年生のジェーンちゃん

「地域における教育の質」について発表をするジェーンちゃん

「政府関係者や地域の  
リーダーたちが、ぼくたちの  
意見を聞いてくれるようになっ  
て本当に嬉しいです」7年生の  
ジョナサン君



ジョナサン君は、政府関係者など地域のリーダーが参加し地域の課題を話し合う討論会で意見を発表しました

また、7年生のジェーンちゃんはパイロット校(試験的取り組みを行う学校)の完成式で子どもたちを代表して、「地域における教育の質」と題して意見を発表しました。「私たちには、正規の資格を持った教師と、十分な教室と机、衛生的なトイレと安全な水が学校で得られることが必要です。私たちも、ほかの地域の子どもたちと同じように、良い成績をとれるようになりたいです」。完成式に参加した地域のリーダーや国会議員は、子どもたちの声を受け、地域の教育環境の改善を進めることを約束しました。

### チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。

2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長をともに喜んでいただけますと幸いです。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。

皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



特定非営利活動法人  
ワールド・ビジョン・ジャパン  
常務理事・事務局長

片山 信彦



## ADPマネージャーからのごあいさつ

親愛なるスポンサー様

ナンコマ地域より、ごあいさつ申し上げます。

2009年から始まった活動は、2025年の終了を目標に活動が進められ、各分野でのご報告の通り、地域に着実な変化が生まれています。

特に保健衛生分野では、継続した啓発活動により地域の人々の意識が大きく変わり、より多くの人々がトイレを利用するようになってきました。そのほかにも、ここにご報告させていただきましたことは、皆さまのご支援なくしては達成することができませんでした。温かいご支援に、心より感謝いたします。皆さまのご健康とご多幸をお祈りいたします。

ジェフリー アバラ（ナンコマADPマネージャー）



## 保健衛生プロジェクト

### 乳幼児へ健康診断や予防接種を実施し、また安全な水源の整備を行いました

保健衛生プロジェクトでは、2歳以下の子どもたち337人に対し健康診断や予防接種を行いました。また、今年度新たに9カ所の水源（深井戸5カ所、湧き水の整備4カ所）を建設し、より多くの地域の人々が安全な水を得られるようになってきました。地域の家庭への衛生設備の普及に努め、新たに134世帯にトイレと手洗い設備が設置され、積極的に利用されています。



小学校に整備された水源から水汲みをする子どもたち。安全な飲み水を手に入れられることで安心して勉強に集中できるようになりました



2歳以下の子どもたちの健康診断や予防接種を行いました

### 子どもたち自身がHIV/エイズの啓発活動を行うことを目指し、研修を行いました



プログラム地域の16の小学校を代表し、ピア・エデュケーターの研修を受ける子どもたち。子どもたちが中心となって、同世代の子どもたちへ啓発活動を行っていきます

HIV感染から身を守る知識を普及するため、68人の青少年がピア・エデュケーター<sup>※</sup>としての研修を受講しました。今後は専門家による一方的な情報提供だけでなく、ピア・エデュケーターの子どもたちが中心となって同世代の子どもたちへ啓発活動を行っていくことが期待されます。妊娠中の女性45人も、HIV感染から身を守る方法について学びました。これらの結果、地域全体の感染率が減少しています。

※ピア・エデュケーター：HIV/エイズ感染の可能性の高い行動について具体的に紹介し、感染しない生活方法についての情報を同世代の仲間にも広める普及員であり、仲間から質問を受ける窓口

## チャイルド・プロテクション・プロジェクト

### 子どもたちの権利や虐待についての理解が深まり、地域住民と子どもたちが声をあげています

子どもの保護者に対し、子どもの保護と権利に関する研修を行い205人が参加しました。地域の人々がお互いに子どもの保護の重要性を認識し、周囲の人々や子どもたちが声をあげることで、家庭での虐待が発覚し4件が起訴されるなど、子どもたちを守るための意識が高まっています。また、子どもたちに対しても子どもたち自身が自分で考え、意思決定し、それを伝えることができるようになることを目的としたライフ・スキル\*の学びを行い、16校の小学校から52人が参加しました。引き続き、地域での子どもの保護を推進するため、地元政府や警察を始めとする地域のリーダーたちとの連携を強めています。

※ライフ・スキル：子どもたちが、自分で考え、意思決定し、それを伝えることができるようになることを目指す学習。性教育、子どもの人権、女性の人権、意思決定について学ぶ



子どもの保護に関する話し合いが行われ、男の子が性的虐待や早婚について意見を述べました



ライフ・スキルに関する学校間コンペで寸劇を演じるADPの小学生

## スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

### 子どもたちの成長を見守っています

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。



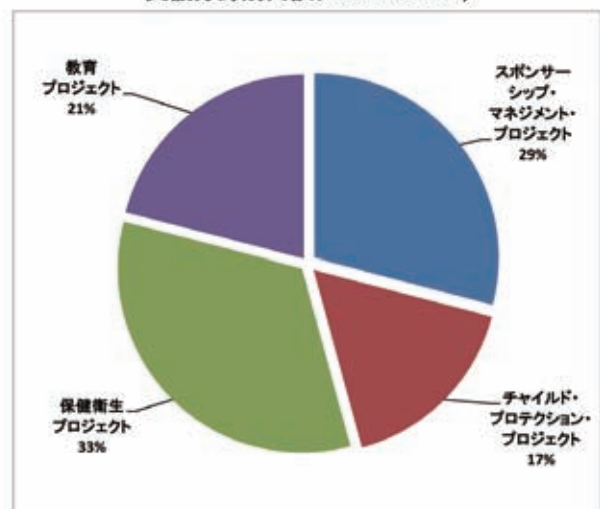
地域の小学校の子どもたち

### 収支計算書

自 2012年10月1日 至 2013年9月30日

UGA-194195 (単位:円)	
<b>プログラム支援額</b>	
チャイルド・スポンサーシップ	40,267,802
当期支援額	40,267,802
前期繰越金	-982,226
<b>プログラム支援額合計</b>	<b>39,285,576</b>
<b>プログラム支出額</b>	
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	10,431,252
チャイルド・プロテクション・プロジェクト	5,978,875
保健衛生プロジェクト	11,926,596
教育プロジェクト	7,514,950
<b>プログラム支出額合計</b>	<b>35,851,673</b>
次期繰越額	3,433,903

### 支援分野別内訳( UGA-194195 )





## 教育プロジェクト

### パイロット校で試験的な取り組みを行いました

#### —新校舎や教員住宅の建設・安全なトイレの設置・給食の配布—

今年度、地域のパイロット校の整備を中心に行いました。地域住民が労働力を提供し2棟の教室やトイレなどの設備が建設されたほか、学校給食を導入しました。これまで床に座って授業を受けていましたが、机やイスを使えるようになり、読み書きがしやすくなったほか、空腹のまま授業を受けていた子どもたちが昼食を取れるようになり、勉強に集中できるようになりました。

また、教員住宅も2戸設置され、交通の不便な支援地域でも適切な資格を持つ教員が赴任しやすくなりました。これまで長距離を通っていた教員は、教員住宅に住むことで、授業の準備や生徒への対応などにより多くの時間をとれるようになり、生徒たちの成績にも良い影響が生まれています。パイロット校での取り組みを通じ、地域全体の教育の質を向上し、教員が不足しているほかの学校への対策を改善できるよう政府に対しても働きかけを行っています。



パイロット校での給食の時間、給食委員がお昼のおかゆを生徒たちに配布しました。学校で給食をとれることにより、途中で学校に通わなくなって落第してしまう子どもが減っています



古い校舎では机やイスもありませんでした



新しく建てられた校舎で子どもたちの学習環境が大きく改善されました



整備された教員住宅



学校給食プログラムを継続するため、作物の種を支援し、校内の畑でメイズ(トウモロコシ)を育てています

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX：03-5334-5359

e-mail：dservice@worldvision.or.jp ホームページ：www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。ホームページにぜひお立ち寄りください。